

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2796400105		
法人名	株式会社 愛のケア工房はるか		
事業所名	グループホームみんなのわが家はるか		
所在地	大阪府堺市南区晴美台3丁9番5号		
自己評価作成日	平成 29年 1月 1日	評価結果市町村受理日	平成 29年 3月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosoCd=2796400105-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 2月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じる事ができる自然に囲まれた木の香りに包まれた温もりのあるわが家。食事の準備や盛り付けなど簡単な調理を個々に応じた力を発揮できる場や、リハビリを活かした活動を通し張りのある生活が送れるよう援助させて頂いています。また、健康、体力維持、気分転換も兼ね、朝の体操や散歩の時間を毎日設けています。行事レクカレンダーを作成し日々、飽きることのない外出行事やレクリエーションに取り組んでいます。個別での外出にも力を入れ、マンツーマンでの買い物、行楽見学や喫茶店などゆったりとした時間を設けたり、アクティビティアウトティングと称した1日その方の為に過ごせる活動の機会を作っています。健康面には気を付け毎朝と入浴前には必ずバイタルチェックを行っています。医療連携ではるか訪問看護職員との連携も密に取り合っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

株式会社「愛のケア工房はるか」が運営する2ユニットのグループホームです。閑静な住宅街に位置し、公園やバス停がすぐ側にある等、立地条件に恵まれています。開設から3年余り、職員は利用者に寄り添い、一人ひとりを大切にする支援をしています。利用者を人生の先輩として尊重し、言葉かけはやさしく、プライバシーに配慮した対応をしています。外出支援に力を入れており、マンツーマンでの買い物や行楽、見学会、喫茶店での時間を楽しむなど、利用者が地域社会に出て交流できるようにしています。利用者は明るく活発で、職員を信頼し、自由に自分らしく生活している姿が伺えます。職員は利用者の日常を写真集やスライドにして家族等と共有しています。家族会を開催し、手打ちそばを味わうなどのイベントも合わせて行い、利用者と楽しんでいます。訪問看護ステーションと医療機関の協力で24時間医療連携支援を行っており、利用者の体調をみて迅速な対応をしています。地域の防災訓練や清掃に参加するなど地域との連携も良く、多くのボランティアに支えられながら、質の高いサービスの提供をめざしているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>経営理念、全社課題、介護理念、年度課題を毎日の朝礼で唱和するとともに、月1回のフロア会議にて理念や年度課題達成に向けた月間目標を考え実践している。毎月のGH会議では目標の振り返りを行っている。</p>	<p>「家族の和を基とし、常に互いを尊敬・感謝する心を持ち、共に学び、共に支え、共に歩む」をホーム理念としています。理念はホーム内に掲示し、朝礼で唱和する等、職員間で理解を深め実践につなげています。理念は地域密着型サービスの意義をふまえた年度課題や月間目標として具体化し、日常支援に活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	他のグループホームのメンバーと共に近所の小学校へ訪問し、寸劇などを通して認知症について学ぶ機会を持ってもらうよう啓発活動をおこなっている。また、自治会に加入し、回覧板や公園の掃除に参加したり、地域の祭りや敬老会などのイベント、避難訓練にも参加すると共に、ボランティアを呼んで催しをする際には近隣の方にも参加を呼び掛けている。	地域自治会に加入し、地域の祭りや敬老会等のイベント、防災避難訓練にも参加しています。地域行事は自治会回覧板等で共有し、近隣公園の掃除等にも参加しています。ホームでボランティアによる催し等を行う際には、近隣にも呼びかけて参加を募り、利用者との交流の場にしてしています。職員は他のグループホーム職員と協力して、近隣の小学校に出かけ、寸劇等を行いながら認知症についての啓発活動をしています。利用者とその家族、地域住民との交流の場として、「はるかふえ」を開設し、認知症に対する理解を深めてもらう場としています。ホーム内に AED(自動体外式除細動器)を設置し、自治会等に告知して近隣住民に周知し、使い方研修時には参加を呼びかけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>隔月第4土曜日にはるかふえ(認知症カフェ)を実施し、利用者とその家族、地域住民との交流の場を通じて認知症に対する理解を深めてもらっている。また、事業所にAEDを設置し、非常時に活用して頂けるように近隣住宅に周知し自治会でも告知していただいたり、研修の参加にも呼びかけている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族、地域包括支援センター職員、地域の自治会長、自治会員、民生委員、グループホームに知見を有するもの、代表者、代表取締役、管理者、計画作成担当で会議を構成し、2カ月毎に行っている。会議でいただいた意見は回覧で共有し、必要な改善策などは都度、話し合っている。</p>	<p>運営推進会議は規則を定め、2か月に1回、年6回の開催をしています。メンバー構成は利用者家族、地域自治会長、民生委員、知見者(大学教授等)、地域包括支援センター職員、代表取締役、取締役、管理者、計画作成担当者等です。最近の会議ではホーム行事、利用者の生活状況、職員の動向、研修状況、家族会開催、事故ヒヤリハット、看取り支援、災害対策、外部評価受審等を話題として意見交換をしています。会議で出された提案や意見についてはホーム内で検討し運営に活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>確認事項や報告あれば必要に応じてその都度電話にて連絡相談をおこなう日頃から協力関係を築けるよう取り組んでいる。</p>	<p>市の担当者とは日頃から情報交換を行い、利用者支援については制度の活用等、個別の相談もしています。また、市内の認知症サポーター養成講座、オレンジカフェ等、認知症についての理解を深める活動等に参加して協力関係を築いています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関わる外部研修受講、内部研修の実施やマニュアルを作成しスタッフ間に周知徹底している。また重要事項説明書にも記述がある。ドアアラームは ON にし玄関は施錠せず開放的にしている。職員の手薄な時間帯のみ内扉を施錠しているが外部から入る事は可能である。</p>	<p>運営規程に「身体拘束」の項を設け、緊急やむを得ない場合を除いて、身体拘束は行わない方針を明確にしています。職員には研修等を行い、身体拘束廃止についての理解を深め、マニュアルを作成して身体拘束を行わない介護を実践しています。転落事故防止については、畳を利用した支援や低床ベッド等の検討を行い、利用者の状況に沿った支援をしています。日中は玄関に施錠せず、鳴り物を付けて注意喚起し、利用者の安全を守りながら鍵をかけないケアを実践しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修受講、内部研修を通じて虐待防止に務めている。また虐待防止マニュアルを作成しスタッフ間に周知徹底している。管理者は、ホーム内で虐待の見逃しががないかを日々確認している。研修や会議を通じて不適切なケアにも考えさせる機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	重要事項説明書に成年後見制度の記述があり入所時に説明している。また相談できる体制にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に基づき本人もしくは家族とともに説明を行っている。各2部作成し、双方が保有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の来所時やカンファレンス、運営推進会議等で、家族からの用件や要望、意見を聞き必ず管理者へ伝えている。重要事項説明書に相談先を明記し説明している。また玄関にも意見箱を設置している。</p>	<p>利用者の意向や要望は、日頃のかかわりの中から聞き取り、その都度記録に残して支援に活かしています。利用者の体調状況等は随時家族に報告し相談しています。家族の意見や要望は、面会時に担当スタッフが傾聴し、記録に残して職員間で共有し支援に活かしています。職員は毎月利用者の状況を「みんなのわが家通信」に掲載し、行事予定や写真入りで家族に送付し報告しています。年に2回家族会を開催し、併せて楽しいイベントを行いながら、家族の要望や意見を出してもらい、ホーム運営に活かしています。玄関に意見箱を配置して意見が出やすいようにしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月 GH 会議を実施しできる限り全スタッフが参加できるようにしている。またケアの振り返りシートを活用したり朝夕の申し送り時に意見を聴く機会を設けている。その都度の対応方法についても状況に応じて検討している。また、管理者とは業務の間にも話ができるようにしたり個別に面談する機会を設けて意見を聴くようにしている。不定期で正職会議も実施している。	代表者や管理者は、日頃から職員の意見を聞き、助言するなど細やかな対応をしています。必要に応じて職員との個別面談を行い、共通する課題については毎月行う職員会議等で報告し検討しています。また、朝夕の申し送り時に職員の意見を聴く機会を設け、迅速な対応もできるようにしています。職員の提案から、利用者支援について、様々な取り組みが実現しています。代表者や管理者は職員が経験に即した外部研修等に参加できるよう調整し、職員の育成に力を入れています。	代表者や管理者は職員が理念や法令遵守、運営方針等を十分に理解して利用者支援に臨めるよう、職員入職時のオリエンテーションを充実する予定にしています。また、先進的なグループホーム等の見学や交流を行うことで、他事業所のハード面、ソフト面、双方の良いところを吸収し、利用者サービスの質の向上につなげる予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の特性を活かせる仕事をまかせたり、チャレンジシートを作成し目標をもって取り組めるようにしている。 全職員が閲覧できるように事務所に就業規則を置いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の要望や勤務年数などに応じ施設内研修を行うとともに施設外研修の参加も進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市南区及び堺市全体のグループホーム連絡会に参加し、他のグループホームとの情報意見交換や研修などをおこなっている。連絡会を通じた集まりにも参加している。他の GH の運営推進会議に参加したり見学に行く事で情報収集に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に直接本人と会って困っていることや不安がないか確認した上でサービスを提供している。状況に応じて病院や施設にも訪問している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と会って困っていることや不安がないか確認した上でサービスを提供している。状況に応じて病院や施設にも訪問している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学をしていただいた際に相談に応じている。担当のケアマネからも情報収集している。また、入居が決まった場合には、本人とその家族がその時に求めておられるサービスが提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家族の一員として、調理・洗濯・掃除といった家事を一緒に行い、利用者同士や職員と助け合う関係を築いている。また、利用者の得意分野やできることを活かし、畑作業や裁縫、毎朝ポストから新聞を取ってくる等それぞれに役割を持っていただけるよう心がけている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常に利用者の状態報告を行い、できるだけ頻繁に家族には来てもらえるように連絡したり、毎月のわが家通信で近況報告を行っている。 また、行事や運営推進会議への参加を呼び掛けている。 家族会やセレモニー、夏祭りなど大きなイベントや外出行事などにも参加してもらえるように声を掛けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に開かれたホームとして玄関は施錠せず日中はいつでも入れるようにしている。できる限り頻繁に面会に来てもらえるように支援している。馴染みの美容院や行楽施設などにも家族付き添いで行ってもらっている。	利用者に面会者があれば湯茶の接待をしてゆっくり話ができるように支援しています。職員は利用者が馴染みのスーパーや美容院、結婚式、旧居住地周辺散策、墓参り等にも出かけられるように、家族の協力を得て個別支援に取り組んでいます。また、友人、知人、遠隔地の家族との関係が途切れないように、希望に沿って手紙や葉書を出したり、電話をかけたりの支援もしています。利用者・家族の希望があれば携帯電話も使用できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮し、テーブル席やソファの座席など配慮している。また少人数の外出時も相性のいい利用者同士になるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をした場合でも面会に行き状態把握に努めている。今後の対応を連携者、家族と相談できるようにしている。退所後もセレモニーや夏祭りなどの行事に参加呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や家族の希望を常に聞くように心がけている。面会時に家族に相談できる限り本人本位に沿えるように検討している。	利用者一人ひとりに担当職員を配置し、日々の関わりの中で思いや意向をさりげなく聞き取っています。言葉で確認できない場合には、筆記や表情で確認し、しぐさや行動等で察知するなどしています。困難な場合には家族と相談しながら支援をしています。また、本人の思いを家族にも伝え、外出等の希望がかなえられるように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネからの情報提供をもとに利用者一人ひとりの生活歴や暮らし方の把握をすると共に、使い慣れた家具や飾りを持ち込んでもらい、家庭環境に近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント時に把握できるよう日頃より、調理や掃除等の家事作業や散歩、畑作業、近くのスーパーへの等を職員と共に行い、身体状態や能力の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成に当たっては、利用者やご家族の意見や要望を聴きケアプランに反映するよう努めている。また、介護計画チェックを毎日行い、毎月モニタリングを実施している。ケアプラン見直し時には担当職員と話し合ったり、問題点をGH会議の議題とし話し合っている。</p>	<p>介護計画書は担当職員を中心に、利用者、家族の意向を聞き取り、ケアチェック表を用いてアセスメントを行い、サービス担当者会議で検討しています。必要時には医師や看護職等、専門職の意見を聞いて、家族と話し合いをしています。介護計画書は実施記録を残して、毎月モニタリングを行い、6か月～12か月毎に見直しをしています。必要時には随時見直しを行い、現状に即した支援をしています。</p>	<p>管理者は利用者家族を交えたカンファレンスに担当職員が同席できるように、家族との日程調整や業務調整を徹底する予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画に沿った記録を日中、夜間帯と細かく記録している。気になることは朝夕の申し送りやケアの振り返りシート、GH会議で職員間共有するようにしている。入院時や退所時は施設支援経過に記録している。PCの掲示板で情報共有に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>画一的なケアにならないようにその時々々のニーズに対応している。アクティビティアウティングを取り入れ家族の希望する場所への個別外出にも取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園には毎日散歩に出かけ季節感を味わえるようにしている。またボランティアさん同行の外出支援を促している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力機関のクリニックが月に2回の訪問診療を行っており、24時間連絡体制が可能である。また、利用者やご家族の希望に応じて訪問歯科も受けれるように支援している。 入所前にかかりつけ医の選択、外部での継続する場合はホームでの様子を伝えている。	利用者・家族の希望に沿った医療機関で適切な医療が受けられるように支援しています。利用者・家族の希望があれば協力医療機関から月に2回の訪問診療が受けられます。訪問歯科診療についても家族の希望に沿って、必要時に受けられるように支援しています。かかりつけ医への外部受診や眼科等の受診、専門医療機関等への受診については家族同伴を基本にしていますが、家族の都合がつかない場合には職員が同伴しています。ホームでは訪問看護ステーションと医療機関の協力により、24時間医療連携支援を行っています。利用者は体調に変化があればいつでも往診を受けることができます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約を行っており、定期的に看護師の訪問があり健康管理を受けている。また利用者の状態を報告・相談したり、緊急時には連絡し指示を仰いでいる。状態に応じて往診や訪問看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、介護サマリーを作成し医療機関への情報提供に努めると共に管理者やケアマネが面会し、利用者、家族、医療機関との連携し、情報交換や相談に努めている。定期的に足を運ぶことで病状の把握を行い退院後の対応を職員間で検討し受け入れ体制を十分に備えられるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護について説明している。状態に応じてその都度、相談できるように努めている。 毎年行っている看取りの研修でも家族や地域に向けて呼びかけ参加を促している。	開設から3年余、看取り支援対象者はいない状況ですが、今後備えて看取りについての職員研修を毎年行い、家族や地域にも参加を呼びかけています。入居契約時には「利用者家族の希望に沿って可能な限り支援を行う」という終末期支援の方針を説明しています。利用者家族からは運営推進会議等で看取り支援についての意見も出されており、24時間医療連携体制をとりながら今後の看取り支援希望に沿えるよう職員の育成に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時のマニュアルを作成している。 年一回 AED、胸骨圧迫の応急研修を実施している。 事故防止マニュアルを作成したり、GH会議で定期的にはリスクシュミレーションを行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>職員、利用者参加の消防訓練を年に2回実施している。また、地域の防災訓練にも参加し、地域の協力体制を築けるよう努めている。災害時の情報発信ダイヤルや非常災害マニュアルを作成している。 災害用として2日分程度の水と非常食を備蓄している。</p>	<p>消防署と連携して、年に2回の防災避難訓練に取り組んでいます。そのうち1回は消防署が出動して、避難経路の確認や災害時の対応について、具体的なアドバイスをしています。ホームでは地域防災訓練にも参加して、地域との協力関係を進めています。ホームの立地条件では水害には合いにくいいため、火災や地震等の避難経路を確保することを重視しています。災害時に備えてホーム内に水や食品等を備蓄しています。備蓄リストはこれから作成する予定です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を行ったり、利用者一人ひとりの尊厳を大切にされた言葉掛けや対応を日々の業務の中でも常に意識するようこころ掛けている。 対応について会議でも話し合っている。 トイレにカーテンを取り付け、プライバシー配慮に努めている。	ホームでは利用者一人ひとりの生活スタイルを大切にしています。職員の都合を優先せず、利用者一人ひとりに合わせた起床時間や食事時間等を尊重しています。職員は利用者を人生の先輩として尊重し、言葉かけはやさしく、プライバシーに配慮した対応をしています。代表者や管理者は接遇の研修を行い、利用者一人ひとりの尊厳を大切にされた言葉かけや対応を行うよう、職員会議で話し合いを進めています。トイレにカーテンを取り付けるなど、プライバシーへの配慮にも努めています。	管理者は人格やプライバシーを損ねない言葉かけや配慮を職員間で徹底できるように、日頃のケアを振り返る機会を作る予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ルーティン業務を優先させず、日常よりコミュニケーションを多く取り、自己選択・自己決定ができるように努めている。セレクト食を実施したり、行事や外出でも自己決定できるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーティン業務を優先させず自己決定できるように努めている。居室で過されるに関しては無理強いせず、食事をずらしたり本人のペースで過ごしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容を受けたり、可能な限り衣類の選択を支援している。 起床時や入浴後に化粧水や乳液を塗ってもらうなど支援している。 眉をかくなど化粧をしてもらえるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に応じて野菜を切ったり盛り付けたり、一緒に準備し後片付けも一緒に行っている。 月に一回は料理レクを実践し、買い出しから一緒に行い、季節感のある食事内容を取り入れている。セレクト食では2つのメニューから食べたいものを選んでもらっている。	朝、昼、夕、3食とも業者から献立と食材の配送を受けて、職員と利用者が美味しい食事作りに取り組んでいます。 毎月1回はセレクト食として、利用者が好みの副食を選べるようにしています。職員と利用者は同じテーブルで食事をしながら、冗談を交わし食事時間を楽しんでいます。利用者の希望に沿って週に1回、おやつ作りにも取り組んでいます。また、月に1回は料理レクレーションの日を決めて、買い物から一緒に出かけ、季節感のある献立を取り入れて楽しんでいます。レストランや喫茶店等、外食にも出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事量、水分量を記録し必要に応じてとろみや食材をカットし食べやすいように工夫している。摂取の少ない方に関して高カロリーゼリーも勧めている。必要に応じて医師と連携し高カロリージュースを処方してもらうなど対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて毎食後の口腔ケアを実施している。夜間帯のみ義歯洗浄を毎日行っている。 希望者には訪問歯科による口腔ケアを定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を優先し機能保持に努めている。夜間でも可能な限りトイレに誘導している。	排泄チェック表を作成し、利用者の排泄パターンを把握しています。ほぼ自立の利用者には排泄状況の確認や声かけなどの支援をしています。介護の必要な利用者には、昼夜とも可能な限りトイレで排泄ができるように支援しています。トイレへの声かけはさりげなく行い、トイレにはカーテンを設置するなどプライバシーに配慮した対応をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録に個人の詳細を記録し、下剤の調整を行っている。朝食時に牛乳を提供したり、水分の提供も促している。希望する方には明治ヨーグルトの宅配してもらっている。買い物で購入するか家族様にも持参してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況確認しながら週に3回の入浴を基本としているが、入浴拒否のあるご利用者には、適切な声掛け等により入浴してもらったり、振り替え入浴で気分の良い時に入浴してもらっている。また変わり湯を毎月実施し季節や雰囲気を楽しんでもらっている。	ホームでは週3回の入浴支援を基本としています。入浴を好まない利用者には時間帯を変更し、言葉かけを工夫しながら、気持ち良く入浴ができるように支援しています。入浴の楽しみの一つとして、毎月変わり湯を行い、季節の変化を感じられるように工夫しています。ヒノキ湯、しょうぶ湯、松湯、ビワ湯、ゆず湯等、ボランティアの協力も得て取り組み、利用者に喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロア、各居室に室温湿度計を置いて空調や加湿器により温度湿度調整を行っている。また、体調に合わせて居室で昼寝をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬の説明をファイリングしスタッフ間で共有している。また薬は一包化しミスのないように二重チェックとしている。また居宅療養管理指導の下、薬局にもいつでも相談できる体制にある。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>その方に合った役割をできるだけ持ってもらい、毎日の散歩や体操に参加促している。また行事レクカレンダーを作成し、楽しみのある生活を送れるように努めている。月に1回は買い物などの外出を出来るようにしている。またアクティビティアウティングを取り入れて馴染みの場所や嗜好品を食べに行くなどの楽しめる環境を支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日の日課としている。家族といつでも外出・外泊できるように急な場合でも対応している。また、定期的に外出行事を企画し、花見・紅葉・みかん狩り・初詣といった季節に応じた外出の他にドライブやプラネタリウム観賞等にも出かけている。また少人数や個別での外出を取り入れ、落ち着いた環境での支援を行っている。家族やボランティアにも参加してもらっている。アクティビティアウティングを取り入れて本人・家族の希望に沿うようにしている。	日常的に個別の外出支援に力を入れています。利用者の体調に合わせて、天気の良い日にはほぼ全員が近隣への散歩に出かけています。少人数での買い物や喫茶店に行くなどの支援もしています。季節行事として花見、紅葉見学、ミカン狩り等に取り組み、家族に参加を呼びかけています。外食は年2回、利用者の好みのレストランに出かけています。アクティビティアウティングを取り入れています。具体的には利用者・家族の希望に沿って、利用者とスタッフが個別に出かけて過ごすことができる支援です。家族の結婚式にスタッフが付き添って列席した利用者もおられます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1万円までを預かり金とし最低でも月に1回は買い物の支援をしている。可能な方は財布を手渡し会計もしてもらっている。オフィスコンビニでいつでもジュースやお菓子を買える環境である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者の意向で、電話がしたい人には、自由にして頂いている。 希望があれば携帯電話の持参も可能である。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけを実施している。テーブルやカウンターの上では最小限の物のみを置いている。時々花も生けている。 行事の写真や予定を貼りだす事で楽しみのある空間づくりを実践している。	玄関には「わが家はるか」の思い出の写真の数々、今月の目標、年間行事予定等を掲示し、意見箱を設置しています。広いリビングルームは柔らかい木のぬくもりが感じられ、大きなテーブルとゆったりしたソファが配置されています。リビングの南面にはあたりの景色が一望できる広いデッキがあり、大きな窓からも季節の移り変わりを楽しむことができます。利用者はリビングのソファでくつろぎながらテレビを見たり、ホーム行事写真のスライドショーを大画面で観賞したりして楽しんでいます。各フロアにはその日の献立表、利用者の行事写真等を掲示し共有しています。廊下等には癒しの言葉入りの絵を配置し、和みの空間としています。トイレや浴室は使いやすく、手すり等を付けて安全に配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブル、ソファの配置に工夫し、相性の良い人との席にも配慮している。</p> <p>個々のペースに合わせ、心地良い場所(バルコニーや和室なども)で過ごして頂ける様努めている。また思いを伝えられない人に対しては、表情等で把握し、居室にて、寛いで頂けるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具の持ち込みやテレビを置くなど家族や本人の希望に沿うように実施している。また転倒リスクのある方に関しては動線を確保し、環境整備に努めている。</p>	<p>居室の入り口には利用者が選んだ和風ライトの飾り付けがあり、落ち着いた雰囲気になっています。居室には大きな窓があり、満開の桜、新緑、公園の風景などを眺めることができます。利用者は自宅から使い慣れた整理ダンス、机、椅子、テレビなどを持ち込み、ひな人形、家族写真、ぬり絵、習字作品等も好きなように配置して、居心地よい居室作りをしています。職員は利用者と共に、安全面にも配慮した居室環境整備に取り組んでいます。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>階段を自由に使用できるようにしている。廊下などの共有スペースには手すりが設置してあり伝って歩けるようにしてある。</p>		